

## 令和2年度社会福祉法人にしあがつま福祉会事業計画

### はじめに

平成から令和の時代に変遷した昨年度は「にしあがつま福祉会活性化基本方針」に基づき組織の再構築や職員の教育等により力を入れてきました。その効果は各現場の安定や利用者数のアップにも繋がったと考えられます。

しかし、これまで25年間管理運営してきた障害福祉サービスの「やまどり」事業所が令和2年度より指定管理から外れるという大きな転換を迎えることになりました。

一方、地域包括ケアを進める社会の中でも近隣の施設も縮小、廃止を余儀なくされている現状にあります。そのような中で当にしあがつま社会福祉法人の地域福祉の中での役割はより重要なものとなってきています。

今後は、「にしあがつま福祉会活性化基本方針」を基礎として、職員不足の解消と財政の安定化をより重視した検討策を講じ経営陣をはじめ職員、利用者、地域の関係者にも理解、協力を求めることが重要点と考えられます。

### <にしあがつま福祉会活性化基本方針>

#### 外に対して [利用者をより意識したサービスの提供]

- ・ より住民に寄り添った地域包括ケアの構築
  - ① 現サービスの維持と向上
  - ② 看取りの普及、啓発活動
  - ③ 地域の理解を高めるための情報提供
- ・ より充実したサービスの提供と、新しいサービスの検討
  - ① 利用者や家族に耳を傾ける
  - ② 各種サービス間の連携と営業展開
  - ③ グループホーム等の検討
- ・ より自立した法人への成長と地域貢献
  - ① 経営健全化
  - ② 財務状況の情報公開
  - ③ 地域貢献事業

#### 内に対して [各々の役割を意識した職場づくり]

- ・ 新たな役割分担の明確化
  - ① 理念の浸透
  - ② 組織の再構築
  - ③ 職務分掌の再検討
- ・ 新たなキャリアパスの明示と人事考課等の構築
  - ① 教育訓練計画の作成
  - ② 人事考課の手法再検討
  - ③ 学校等と連携した人材確保計画
  - ④ 奨学金の再検討
- ・ より意思の疎通を高めた協力体制の構築
  - ① 職員のコミュニケーション力の向上
  - ② 行政との連携
  - ③ 関係機関との連携

# I、特別養護老人ホームからまつ荘運営方針

(介護老人福祉施設・短期入所者生活介護・介護予防短期入所生活介護)

## (目標)

- 1、職員教育等による介護サービスの質の向上
- 2、施設稼働率の改善等による利益の向上
- 3、介護における職員間の共通認識と意思統一をされた組織的なケアの実践
- 4、利用者に寄り添うケアの実践と安全で丁寧な介護の実践
- 5、落ち着いて、安全安心して過ごしていただくケアの実践（短期入所）
- 6、短期入所生活介護稼働率の完全等による利益の向上（短期入所）

## (取組)

- ① 施設内の研修会の参加及び個別のスーパービジョン、自己研鑽等を通じて職員一人一人の介護職としてのスキルの向上を図り、ケアの現場で実践し活かしていく。
- ② 昨年度の特養における稼働実績は75.5人/1日平均（令和2年2月までの実績）で目標の最低74.5人/1日平均は達成された。  
今年度の目標値としては、76人/1日平均を最低としていく。

<からまつ荘の施設稼働実績>は

平成29年度：73.6人 / 1日

平成30年度：72.1人 / 1日

令和1年度：75.5人 / 1日（4月～2月間）

<76人/1日平均を最低とした方策>

- ・2か月に1回の入所検討委員会を開催し、空床が出来たら、最低でも2週間以内に新規入所受け入れができるように最優先で調整していく
  - ・職員の体調不良による長期離脱にならないように、各自職員の健康管理にも留意するとともに、利用者の日頃の健康管理にも注意深く観察し、異常の早期発見、早期治療に繋げていく
  - ・主治医との連携の下、入院者においては、定期的に退院の見通しの有無等連絡調整を密に図っていく。又、入院者のご家族からも、退院の見通し等、医師に積極的に働きかけて戴く。
  - ・延命的な治療を望まず、施設での看取り希望の家族においては、できるだけその意思が反映されるよう、本人の尊厳を留意しながら看取り介護の実践も検討していく
- ③ 日々の申し送りや棟別の介護等を通じて報告、連絡、相談をより強固なものにし、すべての職員が組織の一員として統一されたケアの実践を計っていく
  - ④ 昨年8月に「ご家族様満足度調査」を実践したがその結果、全般的にはプラスの評価を頂いた。しかし、その中で
    - 会話、声掛けを通じて、コミュニケーションをより多く持ってもらいたい
    - 安全で丁寧な介護をお願いしたい
    - 延命的な治療は希望せず、看取りケアを希望したいという意見が多かった。  
貴重な意見として利用者に対しての声掛け、コミュニケーション等を多く持ち、寄り添うケアの実践を図ると共に、安全で丁寧な介護の実践を図っていく
  - ⑤ 短期入所においては、認知力低下の強い利用者様においては環境等の変化で落ち着かず、不穏になりやすい状況ある為、安全に怪我無く落ち着いて、安心して過ごしていただくケアの実践を図っていく。
  - ⑥ 短期入所のR1年度の目標値は9.0人/1日としたが、目標達成には至らなかった。  
今年度においても目標値は9.0人/1日として行く。  
長期の利用者や定期利用者のベッドを確保すると共に、男女別の空き部屋、空きベッドの状況を見ながら、地域の居宅ケアマネ等に情報提供を行っていく。  
併せて、長期利用者や定期利用者を中心に調整を図り、入所本体の入院ベッドを利用頂く等空床型短期入所生活介護の機能を活かすようにしていく。

<短期入所生活介護の施設稼働実績>は  
平成29年度：8.1人 / 1日  
平成30年度：8.2人 / 1日  
令和1年度：7.7人 / 1日（4月～2月間）

## II、からまつ荘通所介護事業所

（通所介護事業・総合事業（介護予防・日常生活支援総合事業））

<目標>

- 1、ご利用者様の声を聴きながらニーズに沿ってサービス提供を行い、楽しいデイサービスにします。
- 2、一日平均の利用者数は16人を目標としていきます

<取組>

- ① 趣味活動の充実（カラオケ、リハビリ、運動、お話等）
- ② 受診日等で休みとなった時などは別日の利用を提案する

## III、からまつ荘訪問介護事業

（訪問介護事業・総合事業（介護予防・日常生活支援総合事業）・障害福祉サービス・ホームヘルプサービス事業）

<目標>

「利用者様の立場になり、ニーズに寄り添うサービス提供」

<取組>

- ① 個々の職員のスキルアップ、知識を高め、サービスの充実を図る。
- ② 自立支援に向けてのサービスを行う
- ③ 担当者との連携の充実
- ④ 月/230件の訪問件数を指す

## IV、からまつ荘居宅介護支援事業

<目標>

「本人、家族に寄り添い、地域及び医療と連携し在宅での生活が可能な限り継続できるように支援する」

<取組>

- ① 主治医、専門職、地域と連携し、本人及び家族に寄り添ったケアマネジメントを行う。
- ② 本人、家族からのサービスに対する評価を各事業所に伝える
- ③ 利用者数は120人を指す
- ④ 介護支援専門員同士で情報を共有し、適切な対応を行う

## V、地域活動支援センター「すきっぷ」

（目標） ・ 日中の居場所づくりや生きがいづくり  
・ 日常生活での困りごとを相談できる機会の提供。

（取組） ・ 登録されていても通所できない方との定期的な関わりを持つ  
・ 多職種との連携を図る